

# 花を咲かせよう

文責 須田

## 問題を抱えた子をスターにする

学級作りの一番醍醐味は、問題を抱える子をスターにすることです。問題を抱えている子がいなければ、もっとやりやすいという考えもありますが、そうではありません。その問題を学級全員で解決したときに学級としてのまとまりや高まりも生まれてきます。その手順を紹介します。

1, 問題を個人の問題ととらえないで、学級の問題とする。

「この問題が発生する学級ではだめなんだ。」という意識を子どもたち全員にもたせることがまず大事になります。時間を守ること一つでもそうです。そういう子が仲間の中にいることが許せないという意識を全員がもつことです。(例外は作らないこと・・・理由を言えば許されるという状況を作らない。意識が弱くなる原因です。)

(遅れた子どもは、仲間に謝る。「みんなに迷惑をかけた。」と・・・)

意識を持たせるためには、学級全員が困る場を作り上げることが必要です。

<例> 全員が揃わないと始めない。(「遅れて授業に参加できないから可愛そう。」・・・遅れてくる子が学習できない。だから待つ。)  
揃うまでの手だて・・・揃うまで待つ。揃うように教師が手助けをする。揃うように子どもに手伝わせる。

揃うまで待つと、みんなが困る(学習が進まない。時間が少なくなる。など)

「でも、あなたも仲間だから、揃わないと始められない。」「あなたが間に合わないみんなは、困るね。」

2, 問題解決に全員で知恵を絞る。

知恵・・・手伝う。問題が起こらないように準備をする。声をかけ合う。メモをする。

掲示して分かりやすくする。教え合う。(問題に合わせて具体的な内容を出させる。)

など、いろいろと子どもなりに考えます。そういう知恵が出せる場を設けること大切です。

3, どちらの立場か、自分の立場を明確にする。

問題を抱える子・・・問題を抱うきっかけは一人かもしれないが、他にも同様の問題を抱えている子、いつもではないが、そういう問題を起こしそうな子がいる。そういう子もこちらの立場になる。

問題をなくそうとはたらきかける子・・・問題を抱えていないから、学級からその問題をなくす立場になる。

4, それぞれの立場であることを明確にする

それぞれの立場で、何をすることが学級からこの問題をなくすことになるのか、自分が行動すべきことを明確にする。

問題を抱える子は・・・問題を少しでもなくそうと努力する。問題を抱える子とよくなるための競争をする。

はたらきかける子は・・・問題を抱えている子を見守る、努力する姿を探す。なくすためのはたらきかけをする。

どの子も学級の仲間としてすべきことがある。問題を抱える子だけの問題にすると他が傍観者となる。傍観者を作ると学級としてのまとまりはなくなる。

5, 見届けする場を確保する・・・毎日、定期的に行うことが大事。そして、見守る仲間になっているかを確認する。

1, 毎日、問題を抱える子の取り組みを振り返る。(この頑張りを学級の子が全員見ているとスターに近づく。)

(努力する姿を見つけれられる仲間かどうか重要です。ですから、「つらい思いをしながらでも頑張っている友達をなぜ見ないの?」と問題を抱える子の頑張りを見過ごすことは許さない厳しさを子どもに示すことです。)

2, どんな取り組みを自分がしたのかを振り返る。

(問題解決するために自分の立場でできたこと、できなかったこと、もっと努力しなければならないことをはっきりさせる。)

3, みんなの努力によりよくなってきている姿をみんな喜び合う。

6, 問題解決の喜びを分かち合う・・・問題が解決し、全員で達成できたとき

1, 問題を抱えていた子の努力があったことを振り返る。

仲間に支えられながら、辛いことを耐えながら頑張ったことを伝える。

(苦手なことに挑戦してやりきったことの素晴らしさは、誰にでも素晴らしさとして映ります。スターになった瞬間です。)

2, 問題を抱えていた子を支えた仲間の努力があったことを振り返る。

問題をなくすために考えた知恵、見届ける姿、支える姿を具体的に紹介する。

「学級みんなで取り組みれば、できないことはない。」と伝える。